

連載

76 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (65歳・内科)

在宅医、新米時代の勇み足。「ニーズ」と「デマンズ」

医師の専門知識からくる「ニーズ」は、患者さんを幸せにする「デマンズ」と、特に乖離する。

ある日、緊急の相談がありました。在宅患者のM.Oさん(当時83歳の男性、認知症、高血圧症、変形性関節症など)が、昨夜から夜間徘徊をし、ベッド上で小便、部屋のいたるところに大便をまき散らし、朝方から傾眠状態とのことでした。いわゆるアルツハイマー型認知症の夜間せん妄で、在宅医としてはめず



らしくもなく、よく相談を受ける症状です。至急、ご家族のためにも、医療行為(点滴静注など)のできる介護施設に体験入所していただきました。周囲の方たちには大変満足していただいたのですが、すぐに大変なこととなりました。M.Oさんがパニック状態となり、帰宅願望が強くなったのです。さらに、私が主治医として継続することを強く拒否されたのです。仕方がないので、私は最後に、ご家族の方たちへアドバイスすることにいたしました。「ご自宅での療養を強く希望されるご本人の

デマンズを大切にいただき、お気に入りの在宅介護事業所のヘルパーさんを中心に、家政婦さんの協力を受けることで、24時間・365日の自宅での介護は可能となります。そして、医療行為は通院介助で病院受診をし、緊急時は救急搬送の手段をおとりください」と。今回のように、経済力があるご家庭では、幸いなことに、ご自宅を介護施設レベルに充分衣替えできるようです。私は、一歩引いた形で介護医療サービスを見つめ、真の患者さんの「デマンズ」満足感を意識しながらゆっくりと、また時には、後見人の方たちとともに速やかに行動していくことの大切さを学習したのでした。

デマンズを大切にいただき、お気に入りの在宅介護事業所のヘルパーさんを中心に、家政婦さんの協力を受けることで、24時間・365日の自宅での介護は可能となります。そして、医療行為は通院介助で病院受診をし、緊急時は救急搬送の手段をおとりください」と。

今回のように、経済力があるご家庭では、幸いなことに、ご自宅を介護施設レベルに充分衣替えできるようです。

私は、一歩引いた形で介護医療サービスを見つめ、真の患者さんの「デマンズ」満足感を意識しながらゆっくりと、また時には、後見人の方たちとともに速やかに行動していくことの大切さを学習したのでした。

長年、在宅介護医療業務を体験していると、色々なパターンに出会います。そして、時代は介護施設・在宅サービスに対し、ハード面・ソフト面でも充実してきました。すなわち、患者さんの「デマンズ」による「ニーズ」解決も簡単になりつつあります。

しかし近年、逆に経済的理由で、可能なサービスも受けられないという事例があります。そこには、国民に対する介護サービスの格差が生まれてしまっているのです。

このような、人の命の尊さの優劣を際立たせる政策は、社会保障の貧困と言わざるを得ません。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 21名

(常勤6名、非常勤15名)

内科・外科専門医 18名

(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名

(ペインクリニック科)

麻酔科専門医 1名

(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)

相談室開設!

Hyper Blood Viscosity(高血液粘度群)を科学する
臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>